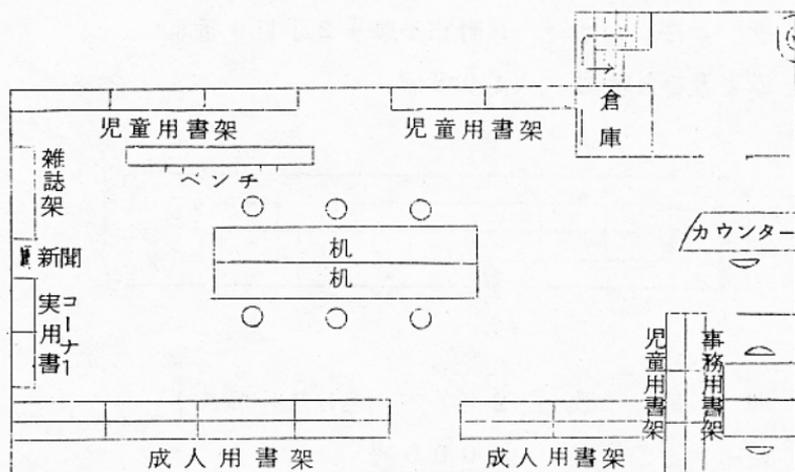


### Ⅲ 図書館の施設

#### 高幡図書館

所在地	日野市高幡68番地 日野市役所七生支所二階
広さ及び配置図	82.5㎡
職員数	二名(内一名は臨時職員)
蔵書	5,000冊(内児童図書2000冊) 雑誌43種
開館日時	月曜日～金曜日 8.30～17.00 土曜日 8.30～12.00
休館日	日曜日、国民の祝日、年末年始



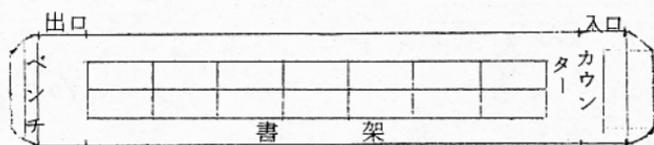


高幡図書館の特色は日野市立図書館の基本方針にそった閲覧室を持たない、貸出図書館であることである。開館当初は図書館のPR不足もあり、貸出冊数もそれ程ではなかったが、昭和42年2月には約2,100冊の貸出がなされるようになっていいる。高幡図書館は日野市の東南部に位置しており、京王線高幡不動駅より徒歩5分の所にあり、設置場所としては良い。又、この周辺は住宅が年々増加しており、今後利用はますます増えることが考えられる。しかし、現在図書館が支所の二階であるということは利用者が気軽に立寄れないという点で、大きなマイナスである。又、この建物が木造の古いものであるため、これ以上、書架を増すことが危険だといわれている。高幡図書館としては最低一万冊の蔵書は必要と思うが、現在の施設では、無理である。したがって、当面、蔵書が常に新しい資料であるように努力して行かねばならない。

## 多摩平児童図書館

所在地 日野市多摩平2丁目9番地

広さ及び配置図 19.8㎡

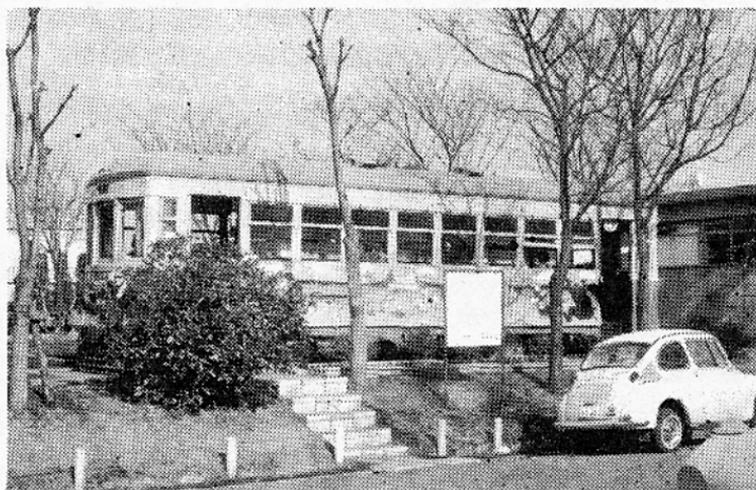


職員数 2名(内一名は臨時職員)

蔵書 6000冊

開館日時 月曜日～金曜日 13.00～17.00

休館日 土・日曜日、国民の祝日、年末年始



児童図書館は多摩平公団住宅の中にある。建物は古い都電を利用した貸出図書館である。利用者は団地外からも来ており、利用は利用実績の通り非常に多い。中には「図書館ごっこ」をしている子どももあり、子どもの生活の中に図書館が自然にとけこんでいるようである。

この問題点を掲げてみる。

1. 建物が都電ということで、子どもの興味を引いたことはあるが、スペースに限度があり、配置等が限られている。
2. したがって、現在以上に蔵書を増やすことは無理である。  
(蔵書は一万冊は必要と考える) 又、職員はもう一名必要であるが、これも無理のようである。
3. 利用者が多く、扉をいちいち開閉しておれないし、扉に直結してカウンターがあるため、冬は戸外と同じ条件で実に寒い。ストーブを置く場所もなく、足温器と毛布だけがたよりだが、職員のためには最悪の条件である。貸出事務に忙殺されることで、寒さがまぎれている状態である。

### 移動図書館車

I-ひまわり号(1号車)

I-1 購入年月日 昭和40年8月28日

I-2 購入価格 178万5千円

### I-3 主要諸元

項 目	諸 元
ボディー型式	キャブオーバー型
シャシー	トヨタRK170 BM
製作会社	東京トヨタ自動車株式会社
原動機の型式	3 R型
エンジン型式	ガソリン直列4気筒水冷4サイクル
総排気量	1897cc
最高出力	80ps / 4600 r.p.m
車輛重量	2450 Kg
車輛総重量	2670 Kg
全 長	5.77m
全 巾	1.87m
全 高	2.24m (室内高: 1.44m)
最低地上高	約42cm
床面地上高	約68cm
軸 距	2.8 m
輪 距	1.4 m
バッテリー容量	12V, 50AH × 2
燃料タンク容量	55 ℓ
定 員	4名



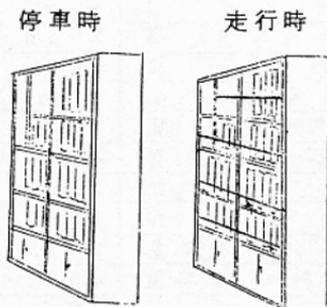
#### I-4 その他の仕様

室内照明	6W蛍光灯4灯、予備灯1灯
外書架照明	左右側面各々4灯
天井ベンチレータ	1. 吸込用
ヒーター	1. デンソー(12V-6C) ダッシュボード下
扇風機	2 運転席1. 貸出席1.
ラジオ付アンプ	1 TEN製品、ダッシュボード部取付
テープレコーダー	1 (ソニーTC-102A) 運転席後部レターケース上
スピーカー	3 放送用2. 天井前後に埋込み 室内用1. ダッシュボード下
インバーター	1 (ナショナル、ロータリー式 定格出力AC100VA)事務用机下、
レターケース	1 運転席後部
事務用机	1 運転席後部
書架	2 内外両面4段木製書架。両側面
図書積載冊数	約1,500冊



## I-5 特 長

- ① 小型ではあるが、キャブオーバー型であり、内外両面書架のためかなりの図書積載が可能である。
- ② 木製書架を使用しているため、図書のいたみが少ない。
- ③ マイクロバスを改造した図書館車であるため、かなり狭い場所にも乗入れ可能である。
- ④ 外書架の部分は明るく見やすく、かなりの人数が図書選択可能である。
- ⑤ 書架の一部を改造して、成人及び児童図書の大型版をより多く積載できるようにした。
- ⑥ 走行中図書が脱落しないように、軽金属アルミ製のストッパーを用いた。(別図参照)



## I-6 改善及び反省すべき点

走行中は本が落ちないように  
なっております。

- ① 風を伴う雨の場合、外書架の図書がぬれやすい。
- ② 貸出終了後、外書架扉をしめる際、雨の日は、扉の上に溜った雨水が書架側へ流れ込む。
- ③ 内書架利用の際、室内高が1.44mなので腰をかざめて図書の選択をしなければならない。
- ④ 車の交通量の多い場所では、利用者の危険にさらされる度合いが高い。

## Ⅱ ひまわり号(2号車)

Ⅱ-1 購入年月日 昭和41年7月27日

Ⅱ-2 購入価格 210万円

### Ⅱ-3 主要諸元

項 目	諸 元
ボディー型式	キャブオーバー型
シャシー	日野BM320
製作会社	河野ボディー
原動機の型式	DM100型
エンジン型式	ディーゼル直列6気筒頭上弁水冷4サイクル
車 輛 重 量	3820 kg
車 輛 総 重 量	4040 kg
全 長	7.17 m
室 長	6.24 m
全 巾	2 m
室 巾	1.9 m
全 高	2.62 m
室 高	1.63 m
最低地上高	38 cm
床面地上高	86 cm
総排気量	4310 cc
軸 距	3.8 m
輪 距	1.5 m
バッテリー容量	24 V. 15.0 AH
燃料タンク容量	45ℓ
定 員	4名

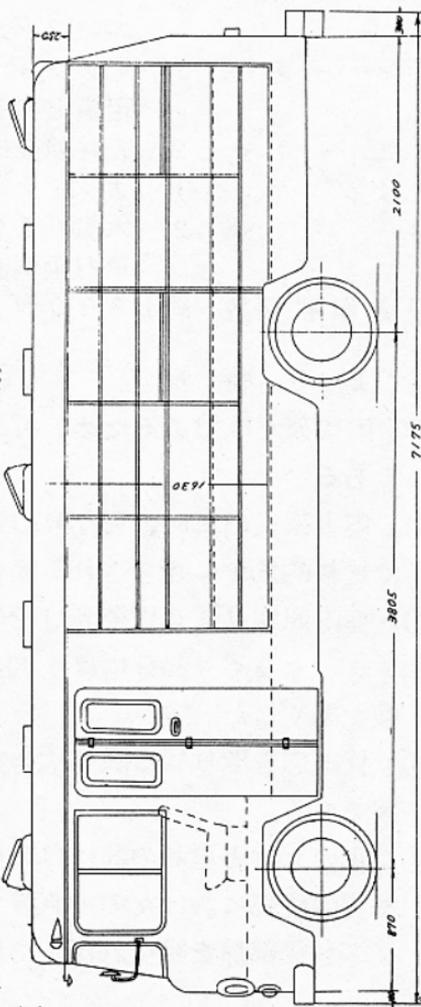
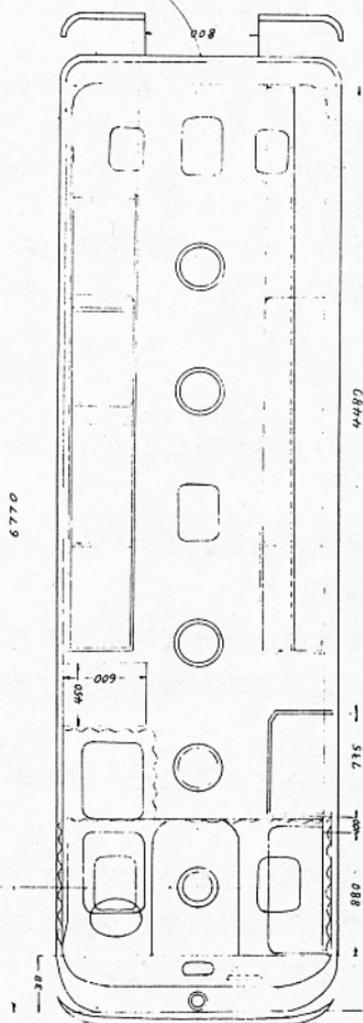
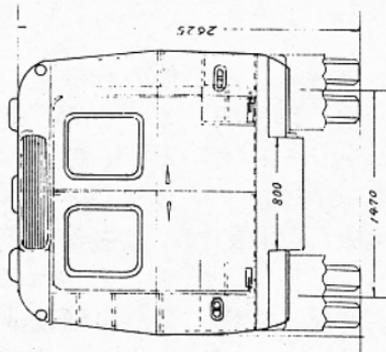
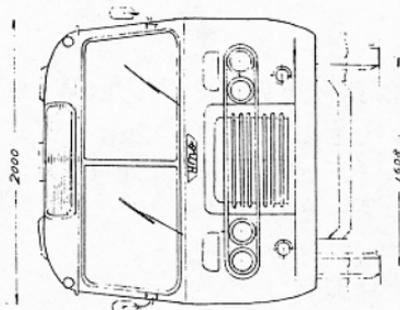


#### Ⅱ-4 その他の仕様

室内照明	4	20W 蛍光灯。(予備灯 24V、10W×5)
天井ベンチレータ	4	(吸込み2. 吐出し2)
前部ベンチレータ	2	(吸込み2. ダッシュボード下)
扇風機(天井扇)	1	三菱(24V-800MA) 25cm エンジンカバー上
送風機	2	車輛後部天井両側
アンプ	1	エンジンカバー上部
テープレコーダー	1	(ナショナルRQ-705) エンジンカバー上
インバーター	1	(ナショナルロータリーインバーター) 定格出力100VA
スピーカー	2	天井前後に埋込み
マイクロホン	1	ナショナルCY-705
書架	2	木製(20mm合板)4段内書架のみ、 車内両側面
図書積載冊数	約1,800冊	

#### Ⅱ-5 特長

- ① 内書架だけであるため、かなりの風雨時にも貸出しが可能である。
- ② 内書架式のため、かなりの交通の激しい場所でも、利用者は比較的危険にさらされる度合いが少ない。
- ③ 室内照明は20W蛍光灯を4本用い十分な明るさである。
- ④ タイヤえぐり部分には上向きの図書収容場所を設け積載冊数をふやした。
- ⑤ 貸出窓を取り得る限り大きくとってあるので、貸出事務が楽である。
- ⑥ 車の天井と屋根の間には断熱材を充分用い、強力な送風機を室内後部に設けたので真夏でもそれ程の暑さを感じない。又冬も後部扉を締切れば、さほど寒さを感じない。



## Ⅱ-6 改善及び反省すべき点

- ① 大きな車を使用し、より多くの本を積載し、より多くの人々に利用してもらう目的であったが、内書架式のため車内に図書選択のため入り得る人数が限られてしまった。(約20人)
- ② 外書架式と異り選択する図書の位置が目の位置より下にあるため、書架の下二段位までは腰をかかめて選択せねばならぬ場合が多い。
- ③ 使用電流に対する車の充電能力が低いため、しばしばバッテリーを、外部より充電してやらねばならない。  
(約2週間ごと)
- ④ ジーゼルエンジンを使用しているため震動がひどく、放送装置をエンジンカバーの上に設けるのは感心しない。
- ⑤ 床までの地上高が、86cmもあるのでステップがあっても昇降が大へんである。(後に木製の階段を用意し、この問題は解決した。)

最後に述べたいことは移動図書館車製作に当っては、充分すぎると思われる計画と、製作が始まったなら、出来るだけ度々様子を見に行き、充分納得のゆく車を製作する事であると思う。又図書館車の生命は書架の配置で決ってしまうものであると思われるので、この点についても充分注意を払うと同時に、地域利用者等の様子も充分考慮に入れて、製作されるべきであると思われる。